



原子力の安全を追求する相互交流ネットワーク

NSネット(ニュークリアセーフティーネットワーク)

〒100-0004 東京都千代田区大手町1-6-1 大手町ビル437号室

TEL: 03-5220-2666 FAX: 03-5220-2665

NSnet News

No.9
September
2001

平成13年度NSネットセミナー開催

- 21世紀の原子力を安全で信頼あるものとするために -



平成13年度NSネットセミナー開催風景

9月13日、東京都千代田区の都市センターホテルにおいて、「21世紀の原子力を安全で信頼あるものとするために」と題して平成13年度のNSネットセミナーを開催しました。当日は、会員、関連企業、関連団体及び一般から約170名の参加がありました。



牧野 昇 理事長



舩添 要一 氏

セミナーは、牧野理事長の挨拶で始まり、続いて舩添政治経済研究所所長 舩添要一氏から「混迷するエネルギー問題への処方箋」と題し、日本のエネルギー事情、最近の国内外の原子力情勢及びこれらを踏まえた現状の原子力問題への提言などについて、ご講演頂きました。

講演では、「電気の生産地と消費地がお互いに理解しあうようにする、原子力発電所の安全対策について国民にきちんと説明していくなど、国民の信頼を得るための地道な努力の継続が重要である」「子供の頃からエネルギー問題を詳しく教える必要がある」などのお話がありました。



鳥井弘之氏

舩添要一氏

秋山 守氏

東嶋和子氏

榎本聡明氏

講演に引き続き、日本経済新聞社論説委員の鳥井弘之氏の司会で「21世紀の原子力を安全で信頼あるものとするために」をテーマにパネルディスカッションを行いました。ディスカッションには、舩添要一氏、(財)エネルギー総合工学研究所理事長 秋山 守氏、ジャーナリスト/元読売新聞記者 東嶋和子氏のほか、東京電力(株)常務取締役榎本聡明氏がパネラーとして参加し、意識の風化をどう防ぐか、専門家の判断と社会の判断をつなぐには何が必要かなど、今後のNSネットに求められる役割について活発な議論を行いました。

第3回 管理者セミナー開催

平成13年8月23日、茨城県水戸市にある常陽藝文センターにおいて、会員各事業所の管理者クラスを対象とした第3回管理者セミナーを開催しました。セミナーでは、技術倫理に関する講演及びピアレビューの良好事例紹介を行い、各会員の管理者約80名と、協賛の東海ノア協定加盟事業所から約10名の出席がありました。

翌24日には、日本原子力研究所、核燃料サイクル開発機構の東海地区、大洗地区の原子力施設の見学を行いました。

最初にNSネットの北村部長から活動報告を行った後、金沢工業大学教授 札野 順 氏から「技術倫理は企業を救うか～リスクマネジメントとしての技術倫理プログラム～」と題し、技術者・技術倫理とは何か、技術倫理と企業倫理、Whistle-blow(内部告発)は正当化されるか、技術倫理プログラムの構築などについて、米国の現状を交えてご講演いただきました。

講演では、「技術者倫理は、技術者にとって周辺領域ではない。評価・行動の倫理的な判断をすることが技術の本質であるので、技術者倫理は、自己の存在意義に関わる中核問題である」などのお話がありました。

その後、会員を代表して原子燃料工業(株)、日本核燃料開発(株)、東京電力(株)の3社から、それぞれの事業所におけるピアレビューで見出された良好事例の中から、「ヒューマンエラーデータベースの活用」「不適合管理システム」「風土改革」などが紹介された後、会場の参加者との間で活発な意見交換が行われました。



金沢工業大学教授 札野 順 氏



会員代表によるピアレビューの良好事例紹介

相互評価(ピアレビュー)の実施状況

今回は、第14回(株)東芝 原子力技術研究所、第15回北陸電力(株)志賀原子力発電所で行われたピアレビューの状況を紹介します。

ピアレビューの概要及び報告書の全文をNSネットホームページに掲載していますのでご覧ください。

第14回 (株)東芝 原子力技術研究所

平成13年7月17日から19日にかけて行われた第14回のピアレビューには、北海道電力(株)、原燃輸送(株)、日本原子力研究所、日本原燃(株)及び北陸電力(株)の専門家(計5名)が評価チームに参加し、組織・運営、緊急時対策、教育・訓練、運転・保守、放射線防護及び重要課題対応の分野について、原子力産業界のベストプラクティスに照らして評価を行いました。

評価の結果、「本研究所からは事故を出さない、起こさない」という行動方針の下、着実に業務を遂行していることが確認されました。また、主な良好事例として「緊急時の行動を具体的に示した手順書が、実際の訓練を通して得られた知見等を適宜反映して整備されていること」、主な改善提案として「トラブル事例水平展開の確度向上の観点から、トラブル事例検討会の位置付けを明確にすること」がありました。



所長面談の様子



ピアレビュー報告書の提出
牧野理事長より(株)東芝 岡村社長



現場観察の様子



ピアレビュー報告書の提出
牧野理事長より 北陸電力(株)新木社長へ

第15回 北陸電力(株)志賀原子力発電所

平成13年8月7日から10日にかけて行われた第15回のピアレビューには、三菱マテリアル(株)、日本原子力発電(株)、関西電力(株)、富士電機(株)、ニュークリア・デベロップメント(株)及びNSネット事務局の専門家(計6名)が評価チームに参加し、組織・運営、緊急時対策、教育・訓練、運転・保守、放射線防護及び重要課題対応の分野について、原子力産業界のベストプラクティスに照らして評価を行いました。

評価の結果、「安全あつての原子力」という所長方針を、所員のみならず協力会社社員にも浸透させるための行動姿勢が確認されました。また、主な良好事例として「JC O事故後早期に『SQUP委員会』を設置し、『行動宣言』を制定するなど、総合的な安全文化醸成活動が展開されていること」また、主な改善提案として「協力会社も参加している『放射線管理部会』の開催頻度を増やす等、協力会社社員との頻繁な情報交換に努めること」がありました。

安全キャラバンの実施状況

今回は、第22回から第24回の安全キャラバンの様子について紹介します。キャラバンの詳しい内容については、NSネットのホームページをご覧ください。

安全キャラバンで講演いただいた内容は、NSネットにて講演録とした上で会員に配布しております。

回	訪問日	訪問事業所	安全講演会講師	講演テーマ
22	8月2日	電源開発(株) 本社	日本原子力発電(株)敦賀発電所 所長代理 徳永克己氏	設備保全屋から見た原子力安全と 安全文化の醸成 - 発電所 現場からの報告 -
23	8月28日	住友原子力工業(株)	-	-
24	9月6日	(株)ジェー・シー・オー 東海事業所	東京電力(株)原子力管理部 品質保証・保安監理グループ マネージャー 福良昌敏氏	安全推進の取組みについて



徳永克己氏 (於 電源開発(株)本社)

「事故・トラブルを防ぐには、『設備を掌に乗せている』状態にすることが必要。すなわち、設備が今どのような状況にあり、いつ何をすべきか又は健全性を確認するかなど、設備について自信を持って掌握していることである」



意見交換会 (於 住友原子力工業(株))



安全講演会 (於 (株)ジェー・シー・オー 東海事業所)



福良昌敏氏 (於 (株)ジェー・シー・オー 東海事業所)

「安全基盤を確保する上で、今後、特に重要なことは、倫理観を重んじる安全文化醸成活動と社会から『安心感』を得る努力を継続することである」



NSネット(ニュークリアセーフティーネットワーク)
NSネット(ニュークリアセーフティーネットワーク)は、東海村のウラン加工施設における臨界事故を教訓として、原子力の安全文化の共有化・向上を図るため設立されたネットワーク組織です。

NSnet News No.9 2001年9月発行

〒100-0004 東京都千代田区大手町1-6-1 大手町ビル437号室
TEL: 03-5220-2666 FAX: 03-5220-2665
インターネットでNSネットの詳しい活動内容をご紹介します。
<http://www.nsnet.gr.jp>